

平成28年度 県立中央高等学校自己評価表

目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の進学校として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。） ・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。） ・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。） 			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
○成果 ・進路実績 国立大学2名合格 私立大学合格60名（延数） 短期大学合格12名 専修学校合格89名 公務員試験4名合格 就職内定100%達成 ・部活動実績（関東大会出場以上） ・第19回スターリングテクナラー マイクロクラス2位 アイディア銀賞 ・落ち着いた学校生活ときちんとした身だしなみやあいさつ ○課題 ・家庭学習の定着を図る方策 ・明確な進路目標を設定させる方策 ・自ら進んでマナーやルールを守る意識の喚起	1	学力の向上と主体的な学習の育成を目指した授業の展開	(1) わかる授業の展開及び生徒の進路希望に沿う学力向上を目指し、指導を工夫する。 (2) 公開研究授業による指導技術の向上を図る。 (3) シラバスの有効活用に努める。 (4) 家庭学習の習慣化を図る。	B	
	2	進路指導における中央メソッドの具体的な運用と充実（国立大合格10名、私大合格100名以上、就職内定100%）	(1) 課外指導の計画的実施及び受講生徒数の増加を図る。 (2) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒により高い進路目標を設定する。 (3) 進学を意識した進路指導を実施する。 (4) インターンシップ、大学見学会や面談指導等を充実する。 (5) 進路ガイダンス、各種調査、模擬試験等を計画的に実施する。	B	
	3	HR活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進及び結果の広報	(1) 企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。	B	
	4	生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実による規範意識の高揚	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) 生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	達成状況及び次年度（学期）への主な課題
国語	・基礎学力の向上	・漢字や単元ごとの小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 ・週末課題の設定など家庭学習の定着を図るための工夫をする。 ・自ら学ぶ力の養成を目指し、積極的に辞書を活用する。		a c	・1、2学年全体での漢字検定への取り組みは、よい方向に向かっていっているので、ノウハウを蓄積していきたい。次年度は自主学習へのステップとして辞書活用を強化したい。
	・読書指導の推進と記述力の向上	・日本漢字能力検定に積極的に参加し、多くの合格者を出すように努める。 ・長期休業中の課題などの読書指導により多くの本に親しませる。 ・読書感想文や各種論文のコンクールに作品を応募させたり、各種校内行事のレポートを作成させたりする。		b c	
	・評価の工夫と改善	・シラバスを工夫し、適正で実効力のある評価をする。		b c	
地歴・公民	・基礎学力の定着および応用的な学力の育成	・アクティブラーニングを適用した授業方法の研究と実践を通して学習者の能動的な授業参加を図る。 ・大学進学を目標にしている生徒を中心とした課外授業を充実し各科目偏差値50以上3割以上を目標とする。成績不振者に対して補講や追試を通じて学習習慣の確立を図る。		b b	・AL取組み元年として教科内の意識改革が進んだ。継続してALのあり方を模索する。 ・偏差値50以上3割は厳しい目標となったが努力は惜しまなかった。次年度も生徒の現状に妥協せず学力向上に取組みたい。ショートインターバルの確認テストを工夫したい。 ・個別でのテスト段階であり、次年度の継続課題として深化を図りたい。
	・評価の工夫と改善	・観点別評価の工夫と研究を図る。		c	
数学	・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実	・生徒の実態・能力に応じた授業を展開する。 ・生徒の進路希望に応じて積極的に課外授業を展開する。 ・定期テストの不振者に補講を行う。		a a	・一人一人の生徒に応じた授業、課外、課題を工夫した結果、数検の合格率が71%となり、生徒の基礎学力の定着を図ることができた。今後数検の受験者数を増やしていく。
	・基礎学力の向上	・確認テストや発問を多くし、基礎学力の定着を図る。		a	
	・家庭学習時間の確保	・宿題や週末課題を出して家庭学習の状況や理解度を確認する。		a	
	・長期休業中の課題を通じ、安定した学力を維持する。	・長期休業中の課題を通じ、安定した学力を維持する。		a	
	・評価の工夫と改善	・定期試験、宿題、長期休業課題、授業態度等を適切に判断して評価を行う。		a	

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題			
理科	・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。 ・ICTを活用して授業を行う。 ・校外授業や放課後等の課外実験など、多彩な学習形態を試みる。 ・博物館からの資料など、多様な教材を利用して授業を行う。	a b a b	A	・授業は工夫を怠らして多角的に展開することができた。進路希望者にはもっと個々の生徒の目標を早めに固め十分に対応していかなければならない。また、評価については継続して検討していきたい。		
	・進学希望者への対応	・学年主体の課外他に、個別で生徒対応の指導を行う。 ・生徒の進路希望や興味関心に応じた科目選択を用意し、少人数授業を実施する。 ・観点別評価を生かした授業評価法の改善を検討する。	a b c	B C			
	保健体育	・運動の楽しさの体験 ・生涯スポーツへの継続 ・運動をとおした体力の向上 ・評価方法の工夫 ・自己の体力の向上	・選択制の授業形態の充実に、様々な種目選択を可能にし積極的な活動を促進する。 ・自己や周囲の健康、安全に配慮し、技能や体力の向上に努める。 ・体ほぐし、体作りの運動を取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を、実施する。 ・観点別評価を導入し、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行う。 ・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。	a a b a	A B A	・全国大会発表を経て、昨年度・今年度とスポーツ科学コースの授業形態・内容の充実が図られた。 ・観点別評価については、各教員間の徹底が図れた。 ・次年度以降の課題として、スポーツ科学コースの選択制や授業内容を発展的に変更していくことが必要である。	
		・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・視聴覚教材を有効に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成する。	a b	A		
		芸術	・(音楽)創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。	b a		A
			・(美術)基礎的な技術力の向上及び芸術を愛する心情や豊かな感性の育成	・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 ・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動をとおして芸術と生活との関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。	a b		A
	外国語	・基礎学力の向上	・レッスン終了時に課題や小テスト等を実施し、学習理解の状態を把握して、不十分な生徒に対しては、個別指導を実施する。またノート提出やプリント学習を通して、基本事項の定着を図る。	b	B	・今後も基礎学力の向上、家庭学習習慣の定着を図り、生徒の進路実現に繋げていきたい。 ・英検の二次合格者を96%に引き上げることができたので、更に一次指導と共に強化していきたい。	
		・家庭学習習慣の定着	・学習習慣の定着のために家庭学習用の課題を互え、定期的に点検し、評価に加える。	b	B		
		・実践的英語力の向上	・1年生は全員英検を受験する。合格対策として事前課外、二次受験者課外を実施する。 ・2、3年生についても、英検の受検を奨励し、合格のための支援を実施する。 ・生徒の実態に合わせた指導法を考え実践し、授業内容を検討し改善に努める。	a b	A B		
		・新学習指導要領に基づく授業の実践 ・評価の工夫と改善	・定期考査・実力考査・課題・授業態度や問題演習への取り組みなどを総合的に判断し、評価する。	b	B		
	家庭	・生活を創造する力の育成	・意見発表の機会を増やし、自主的活動を促し、生活に対する自分の考えを確立できることを目指す。	b	B	・実習内容の見直しや外部との連携により、生徒の実践活動の機会を増やすことができた。 ・評価方法については実習時の効率よい評価などを主課題として次年度以降も検討を重ねていきたい。	
		・基礎技術と実践的態度の育成	・実習・実験を効果的に活用する。また、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通してより主体的な実践活動に取り組む。	b	B		
・評価方法の改善を図る		・実習・実験時の活動の評価について観点別評価を取り入れた評価表を活用する。	c	C			
情報	・情報社会に参加する態度を育成する	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技術を修得する。また、情報モラルを踏まえた適切な判断ができるようにする。	b	B	・情報モラルやセキュリティへの理解と対処法を身に付けさせることができた。 ・生徒発表の充実が課題である。		
	・情報活用能力の育成	・プレゼンテーション能力の向上を図るため、生徒発表会等を実施する。	c	C			
	・評価の工夫と改善	・観点別評価を生かした授業評価法の改善を検討する。	b	B			

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		達成状況及び次年度（学期）への主な課題
教 務	・授業時間の確保	・チャイム始業・チャイム終業の徹底を図る。	a	A	<p>達成状況及び次年度（学期）への主な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業の展開は概ね達成できた。 ・より一層の生徒の学習意欲を喚起する指導、上位者や下位者への個別の対応が必要である。 ・AL研修会の実施、教員相互の授業参観等を実施できた。次年度も継続していく。 ・高大連携授業等特色ある行事が予定通り実施できた。海外派遣は韓国研修のみとなった。上海研修も含めて特色ある行事として継続していく。 ・学校説明会、中央だより配付、HP更新等、内容の濃い広報活動ができた。 ・年間行事計画に従い、各行事の準備運営を滞りなく実施できた。
	・わかる授業の展開	・公開授業等の相互研修の機会を増やし、教科指導法の工夫と研究を行い、授業の質的向上を図る。	b	B	
	・学力の向上をめざした指導の工夫	・生徒による授業評価を実施し、指導方向上の参考とする。	b	B	
	・シラバスの活用と評価	・アクティブラーニング校内研修を実施し、指導力向上の参考とする。	a	A	
	・家庭学習の習慣化	・成績不振者の指導と成績中位・上位者への学習意欲のなお一層の喚起を図るため、教科・学年・校務分掌間の連携を図り、学力の向上に努める。	b	B	
	・特色ある教育活動の充実	・シラバスに沿った計画的な進捗と達成状況を確認し、積極的に観点別評価に生かす。	b	B	
	・教育活動の広報と生徒募集の推進	・生徒の家庭学習時間を確保するために指導法を工夫し、課題（宿題）等を計画的に与えて家庭学習の習慣化を促す。	b	B	
	・年間行事計画の充実	・海外との学校との交流、中国上海・韓国での語学研修、スポーツ科学コースにおける大学との連携授業など、特色ある教育活動を充実する。	a	A	
		・広報誌やホームページ等を活用し、本校の教育活動の広報にさらに努める。	a	A	
		・効果的な学校説明会・学校訪問等を企画し、平成29年度入試の生徒募集に努める。	a	A	
	・教員・生徒が高い目的意識を持って学校生活に取り組めるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施のために校務分掌間の調整を行う。	a	A		
	・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化させる。	a	A		
進 路 指 導	・課外指導等の充実	・課外授業を充実し、学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な進路事業の結果として今年度の3年生の進路決定状況は良好であった。国立大学は現在のところ公募推薦で茨城大学4名合格（人文社会科学部2名、教育学部2名）である。就職者は民間企業25名、公務員4名と100%内定している。また、医療系大学・専門学校への進学者も20名を超えている。また、センター試験受験予定者が104名と最後まで学習に取り組ませる体制ができた。 ・生徒及び保護者への情報発信がやや足りないのが課題である。分かりやすく、効果的な進路情報の発信方法を考えていきたい。
	・インターンシップの充実と進路意識の高揚	・放課後の平常課外や土曜課外に積極的に参加する。	a	A	
	・進路指導内容の充実	・インターンシップを通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。	a	A	
		・総合的学習の時間等を有効利用する。	a	A	
		・校外模試を計画的に実施し、その結果を次の指導に活かす。	a	A	
		・大学説明会や大学見学会へ積極的に参加させ、志望校決定など進路決定の一助とする。	a	A	
		・進路ニュースを充実させ、精選した最新の進路情報を提供する。	b	B	
	・中央メソッドの充実と発展	・中央メソッドを具体的に各学年で運用し、3カ年にわたる系統的かつ具体的な進路計画を策定する。	b	B	
	・面談指導の充実	・定期的な面談週間だけでなく、生徒との個別面談の機会をできるだけ多く作り実施する。	b	B	
		・保護者面談等の機会に充実した進路情報を提供する。	a	B	
・家庭、企業、大学との連携	・大学進学率の向上を図るため、大学見学会を実施する。	b	B		
	・出前授業、卒業生による講演会、進路ガイダンス等を実施し進路情報の提供に努める。	a	A		
	・企業訪問や職場見学会を実施する。	a	A		
		b	A		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立 ・安全安心な教育環境の整備	・定期的な頭髪検査を実施し、高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。 ・校内外の安全確保に努め、特に各学年の要望を聞き、必要に応じて巡回指導を実施する。 ・保護者、関係機関との連携を図る。	b b a	A A B
	・ルールの主たる意識の向上	・毎生担任指導に力を入れ、安全確保を図る。 ・全校生徒を対象とした交通安全教育を実施する。 ・交通安全教室、制服着	a a b	
	・関係強化の意識	・各学年の交通安全教育を実施する。 ・交通安全教室、制服着	b b a	
保健指導	・充実した学校保健・安全計画の立案	・各学年の保健指導計画を策定し、実施する。 ・交通安全教室、制服着	a a b	A B A
	・健康診断並びに健康相談の実施	・各学年の健康診断を実施する。 ・健康相談を実施する。	a b a	
	・校舎内の環境整備	・校舎内の環境整備を実施する。 ・美化委員会による校舎内の清掃を行う。	a b a	
特別活動	・望ましい集団活動の推進	・生徒の自主性を発揮し、活動の活性化を図る。 ・部活動の強化を図る。	a a b	A B
	・部活動の活性化	・部活動の強化を図る。	b a	
	・部活動の活性化	・部活動の強化を図る。	a	
図書	・LHR、授業等での活用に応える図書室の充実	・関連教科の担当者を利用を呼びかけ、対応した関連展示コーナーを作成する。 ・生徒・職員の図書購入希望調査を、年2回以上行い、図書・資料の充実を図る。	a a	A A B
	・生徒の図書館利用の活性化	・読書の推進を図るため、「図書だより」を年間8回以上発行する。 ・図書委員による昼休みの貸し出し業務を円滑に行う。	a a	
	・図書委員の自主的積極的活動の奨励	・図書委員が自主的に校外研修に参加することを奨励する。	b	
渉外	・各種行事への保護者の参加率の向上	・PTA総会への出席率を上げるため、日程中の学年・学級懇談は学年ごとにどちらかを選択する形を継続し、出席者の拘束時間の短縮を図る。 ・魅力あるPTA研修旅行を企画する。	b a	A A
	・広報活動の活性化	・PTA会報「もんだあ」を9月初めと2月末の年2回発行する。	a	
エネルギー	・生徒の研究活動の支援	・生徒が各種コンテストや研究発表会に参加することを奨励する。	a	A B A
	・環境とエネルギーに関する学習機会の増加	・小中学生、校内生徒、保護者を対象とする教室を行う。	a	
	・教材や指導法の研究 ・教職員、保護者の啓発	・関連教科間の連携のため、打合せを行う。 ・職員研修会を年1回以上実施する。	b a	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題	
1 学年	・ 基本的生活習慣の確立	・ 中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 ・ 面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。 ・ 段階的指導を有効に展開し、落ち着いた生活環境づくりに努める。	b b a b	B	・ 配付文書が保護者に確実に到達するように緊急情報配信メールの登録率を上げる。 ・ 進学課外出席者の定着を図る。
	・ 基礎学力の向上	・ わかる授業、知的好奇心を喚起する授業を展開し、大学入試を対処できる学力づくりに努める。 ・ 英国教の朝ドリルを実施し基礎学力の定着を図る。 ・ 英語の基礎力養成を図る。10月の英検(第2回)3級・準2級合格率30%以上を目指す。 ・ 講演・講話の機会に記録・感想を書かせ、記述力の向上を図る。 ・ 平日の放課後(週3回)、土曜日、長期休業日等に課外指導を実施する。 ・ 成績不振者への指導を徹底する。 ・ 校外模試の数値目標 校外模試の各科目平均偏差値45以上、平均偏差値50以上を20名、英教国各偏差値50以上30名を目指す。	b b a a b c		
	・ 進路意識の高揚	・ 進路意識を高めるために進路講演会や出前授業を開催する。 ・ キャリア教育の一環としてオープンキャンパス参加の促進と「職業インタビュー」を実施する。	a a	A	
	・ 特別活動への積極的な参加	・ 積極的に部活動への参加を促す。ON-OFFの切り替えの重要性を認識する。	a	B	
	・ 保護者(家庭)との連携	・ 保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図るとともに、情報の提供に努める。	b a	A	
	2 学年	・ 基本的生活習慣の確立	・ 中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 ・ 面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。	a a	
・ 基礎学力の向上		・ 英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級・準2級・2級合格率70%以上を目指す。 ・ 家庭学習時間の全体平均1時間以上、特進クラス平均3時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。 ・ 進研模試の各科平均偏差値45以上、個人国数英総合偏差値(全国)50以上を、自然科学系15名以上、人文国際系15名以上、英教国各偏差値50以上30名を目標とする。 ・ 小論文指導の充実を図る。	b b b c		
・ 進路指導の充実		・ 従来の進路講演会や出前授業などの進路行事に加え、進路別LHRや総合学習の時間を有効に活用することで進路意識を高める。 ・ 生徒各自の進路目標を確定させ、個別に努力目標を設定する。 ・ オープンキャンパスや公開授業等へ積極的に参加する。	a b b	B	
・ 特別活動への積極的な参加		・ 中核学年としての役割を自覚させ部活動や行事等に積極的に参加する。	a	A	
・ 充実した修学旅行の実施		・ 総合学習やLHRを利用したガイダンスを行うことで、充実した事前学習・平和学習や体験学習・事後学習を実施する。	b	B	
・ 保護者(家庭)との連携		・ 保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図るとともに、進学保護者会などを実施し、情報の提供に努める。	b	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		達成状況及び次年度(学期)への主な課題
3 学年	・生活指導の充実	・社会で通用する常識や基本的生活習慣を身につけられるよう指導を徹底する。 ・面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。	b	B	・日常的な生活指導の徹底に努めた。
	・キャリア教育の充実	・進路別LHRを積極的に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた指導を実践する。 ・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。 ①国公立大学10名以上、大学・短大進学者数90名以上合格を目指す。 中堅私大合格者10名以上、県内私立大学の一般試験合格者10名以上を目指す。 ②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定の100%を目指す。 ・合格に結びつく面接指導、小論文指導を行う。	b		
	・学力の向上	・家庭学習時間の全体平均1時間以上、特進クラス平均4時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。 ・平常課外や土曜課外、夏期・冬期休業中の課外への積極的な参加を促すとともに、最後まで受講する指導を徹底する。部活動終了後の課外参加率90%以上を目標とする。 ・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底したりして、模擬テストを有効に活用する。 ・大学入試に対応した授業、課外を展開する。	c	B	・生徒全員の進路実現については、目標達成に向けてスタッフ一丸で努力できた。 ・他学年の先生方の負担は大きくなるがオール中央の面接指導は成果があった。 ・課外出席率を増加させることと、課外の質を維持することの両立が課題である。 ・進路決定者の課外や模試などへの取り組みをどのように改善するかが課題である。
			b		
			c		
			b		
・特別活動の充実	・部活動や学校行事に積極的に参加させ、充実感・達成感を実感させるよう指導する。	a	A	・基礎学力の定着と大学入試レベルの学力づくりが課題である。	
・保護者との連携	・大学進学希望保護者説明会を実施する。	a	A	・各行事への主体的な参加を促し、行事は概ね成功した。 ・保護者への大学進学意識の向上には成果があった。	

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない